

## 第124回 記者懇談会実施概要

1 日時 2018年9月20日(木) 15:00～16:45

2 場所 関西大学梅田キャンパス 4階 KANDAI Me RISE ラボ (多目的室)

3 内容

**(1) 第38回「地方の時代」映像祭2018 概要記者発表 (15:00～15:15)**

・市村 元(「地方の時代」映像祭プロデューサー)より概要説明および入選作品紹介

**(2) 研究発表・質疑応答 (15:15～15:45)**

・林 倫子 環境都市工学部准教授

発表テーマ「伝統的な防災・減災の知恵を活かした持続可能な地域形成に関する研究」

**(3) 学内状況説明 (15:45～16:30)**

- ① 全国で唯一! 文部科学省世界展開力強化事業(タイプB)に採択! ～COIL学習を活用した新たな国際教育モデルを提唱するプラットフォームを構築～ 資料1
- ② 戸籍上は男性の敏腕女性弁護士・仲岡しゅん客員教授講演会を開催 資料2
- ③ 留学を控える大学生約200名を対象に、吹田市選管による在外選挙制度説明会を実施 資料3
- ④ 社会学部溝口佑爾ゼミが「藤・嵐山」との共催で着物フォトコンテストを嵐山で開催 資料4
- ⑤ 学生の起業マインドを醸成! イノベーターズトーク vol. 10,11 を開催 資料5
- ⑥ 関西大学ビジネスプラン・コンペティション「KUBIC2018」本選会を開催 資料6
- ⑦ 地域住民を巻き込んだ大規模防災訓練! 「関大防災 Day2018」を開催 資料7
- ⑧ 3大学(関西大・大阪市大・大阪府大)連携事業「スポーツを通して見えてくる社会」を開催 資料8
- ⑨ 1年次生および3年次生父母・保護者対象 就職説明懇談会を開催 資料9
- ⑩ 関大の先端研究を紹介! 「研究・技術シーズ集2018-19」を発行 資料10
- ⑪ 地域協働の多彩なプロジェクトを紹介! 「地域連携事例集 vol. 4」を発行 資料11
- ⑫ 2017年度学生生活実態調査の結果について 資料12

**NEW (4) 学長による話題提供「芝井の目」～最近の大学情勢についてのあれこれ～ (16:30～16:35)**

テーマ:「大学の合併と廃止」

**(5) 意見交換・質疑応答 (16:35～16:45)**

学長はじめ執行部に対し、テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。

4 大学側出席者

芝井敬司学長、良永康平副学長、前田裕副学長、高作正博学長補佐、林倫子環境都市工学部准教授、市村元(「地方の時代」映像祭プロデューサー)、藪田和広学長室長、富山浩嗣学長室次長、立仙和彦総合企画室次長、依藤康正広報課長 他

5 参考資料

- (1) 社会安全学部と京都府京丹波町の包括連携協定の概要
- (2) 「関西大学フェスティバル in 東海」開催チラシ
- (3) 「食品の革新的保存・流通技術研究開発プラットフォーム公開シンポジウム」開催チラシ
- (4) 社会連携部主催「公開講座・シンポジウム」開催チラシ
- (5) 関西大学ニューズレター「Reed」第54号 (6) 関大生の活躍 (7) 行事予定表(9月～11月)

以上

【次回(第125回)記者懇談会開催予定】

日時:2018年11月15日(木) 場所:梅田キャンパス4階 KANDAI Me RISE ラボ

備考:当日に説明・情報提供を希望する事項がございましたら事前にお知らせください。

TEL:06-6368-0201 E-Mail:kouhou@ml.kandai.jp

# 伝統的な防災・減災の知恵を活かした持続可能な地域形成に関する研究 —滋賀県水害履歴調査から見えてきたこと—

環境都市工学部 准教授 林 倫子

## 【概要】

近年の我が国では、気候変動に伴う洪水リスクが増大し、実際に全国各地で水害が多発している状況にある。近代以降の治水技術は、水害を発生させない、すなわち河道から水を溢れさせないための施設整備として発展してきた。しかし近年では、これらの対策の限界が認識されるに至り、水害を完全に防ぐのではなく、都市計画、避難等のソフト対策も含めた総合的な治水対策により被害を軽減させるという方針転換がなされている。したがって今後の我が国では、「行政・住民・企業等の各主体が水害リスクに関する知識と心構えを共有し、氾濫した場合でも被害の軽減を図るための、避難や水防等の事前の計画・体制、施設による対応が備えられた社会」を構築していくことが求められている（『水防災意識社会』再構築ビジョン」国土交通省・平成27年）。

実際、現在の我々は、ハザードマップなど様々な災害リスクの情報に、手軽に触れることができる環境にある。しかしその一方で、リスクに関心がない、もしくは知っていてもリスクを受容できないという層が一定数いることも、また事実である。自分の住まう地区の水害リスクを、実感できる情報として受け止めてもらうことが必要である。

そこで関西大学景観研究室では、滋賀県流域治水政策室と協働で、各地域の水害履歴を発掘する「水害履歴調査」を行っている。かつての日本では水害の発生頻度が高く、地域は当たり前のように水害に備え、対処するための経験知も伝承されていた。かつての水害を知る古老から水害経験や地域知を聞き取り、マップとしてアーカイブ化し共有することで、現代における新しい形の水害伝承を目指している。身近な地域や身近な人々の経験談や知識は、水害未経験世代の共感を生むことが期待される。またかつての被災状況を「ものさし」として、今後想定されている水害リスクを想像することもできるであろう。

研究発表当日は、本調査の成果の一部をご紹介しますとともに、調査を通して見えてきた、水害とともにある社会構築に必要な観点について述べる。

## 【プロフィール】

兵庫県神戸市出身。2005年京都大学工学部地球工学科卒業、2010年同大学院工学研究科都市環境工学専攻博士後期過程修了。その後、学振特別研究員（PD）、立命館大学理工学部都市システム工学科助手、同助教を経て、2017年に本学着任。博士（工学）。

専門は土木史、都市史、景観。学生時代に、京都の納涼空間や遣水文化に感銘を受け、日本の水辺のあり方を利水・治水・空間利用・環境などの観点から総合的に考えるべく、近現代の水辺景観形成事例研究を進めている。

以上